

モデルコース① 祈りの地・身延山の起源と継承

祈りの地の始まりと日蓮聖人の伝説を巡る身延山コース

祈りの地の始まりである総門から、門内を通り、三門、菩提梯、身延山へ到達し、表参道を通して奥之院・思親閣を訪れ、裏参道(北参道)から再び三門へと戻ります。身延山久遠寺を中心とした荘厳な寺社仏閣、総門、三門、そして287段・高低差104メートルの菩提梯の迫力は驚きがあります。道の各所から見える美しい富士山や、七面山の荒々しい頂は、長い道のりを楽しませてくれます。季節により、春の桜(枝垂桜)、秋の紅葉、六老杉、ミツマタの花が楽しめます。寺社仏閣と調和して美しい風景となります。朝勤をはじめ、響き渡る祈りの声、団扇太鼓の音、行き交う信徒の賑わいや白装束など、生きた信仰の姿に出会うことができます。

コース概要	S G 総門(または仲町駐車場)
	距離: 約17km 所要時間: 約4時間半(休憩時間を除く) 高低差約950m。総門～表参道大光坊までは舗装路で以降は未舗装、裏参道はほぼ未舗装
その他 関連情報	身延山ロープウェイを利用することで山頂まで7分で到達できます。 早朝、身延山本堂で朝勤に参加できます(予約不要、詳細はHP等で要確認)。 冬期は、登山道の凍結や積雪に注意してください。



総門

聖域への入口となる門です。総門は日蓮聖人が身延山に入山する際、出迎えた南部実長公と対面した場所に建てられました。1665(寛文5)年、刈谷城主三浦志摩守安次公の母が寄進したため、門柱に三浦家の家紋が記されています。門にかかる開会閘は36世日潮上人によるもので、一切の人々は法華経によって仏になるという意味があります。



三門

本堂の正面に立つこの門は三解脱を経て涅槃に至る意味合いから「三門」と呼ばれます。間口23m、奥行き9m、高さ21m。総ヶヤキ造りの堂々たる門は、京都の南禅寺、東福寺と並んで「日本三大三門」の一つに数えられています。1907(明治40)年に再建されました。楼上には釈迦如来像と16体の羅漢像が奉安されています。



菩提梯

三門と本堂を一直線に結ぶ急勾配の石段は、1632(寛永9)年に起工、完成したものです。287段の階段は「南無妙法蓮華経」の7文字の題目が41編あることにちなみ、階段自体も7つの区画に分かれています。この石段を登ると、「涅槃」とされる本堂に到着することから、法華経の信者は題目を唱えながらこの階段を登っていきます。



久遠寺本堂

御本尊は「須弥壇」と呼ばれる台座を含めて高さ9mに及び一塔両尊四士で、仏師・江里宗平の作。日本画の大家、加山又造画伯による勇壮な天井画「黒龍」も見どころです。本堂の地下には宝物館があり、久遠寺が所蔵する宝物や史料が展示されています。本堂では毎日朝勤が行われており、誰でも参加できます。



奥之院思親閣

身延山頂は日蓮聖人が身延山で過ごした9年間に幾度となく登り、故郷である房州小湊の両親を偲び、追慕した霊場です。祖師堂には祖師像、六老僧像、妙日・妙蓮像が奉安され、鐘楼と洪鐘は祖師堂と共に身延町の町指定文化財に登録されています。仁王門は伝運慶作の密迹金剛、那覇延金剛が勇壮な姿を見せています。



追分感井坊

追分とは分岐点のことで、右に進めば奥之院、左に進めば赤沢宿、七面山へと向かいます。感井坊は1688(元禄元)年、31世日脱上人によって建てられ、六老僧の一人である日朗上人作の帝釈天を祀る帝天堂があります。日蓮聖人が明神の夢を見た際に湧き出たと伝えられる井戸もあります。



千本杉

約0.8ヘクタールの土地に樹齢250年以上の巨木が約260本並ぶ様子は神々しく、荘厳な雰囲気があります。幹の周囲が5mを超えるものもあります。「千本杉」は山梨県指定天然記念物に登録されているほか、「山梨の巨樹・名木100選」、「やまなしの森林100選」にも選ばれています。



松樹庵

松樹庵からは久遠寺の境内と門前町が一望でき、紅葉の名所としても知られています。松樹庵が立つのは、日蓮聖人が奥之院登詣の途中で松の木に袈裟をかけたと伝えられる場所。建物は1704(宝永元)年に創建されたもので、現在も2月に水行などを行う「1日荒行」が行われています。



妙石坊、高座石

妙石坊は学禅院日蓮上人が文禄年間に開いた場所です。この場所にある祖師堂には、唐銅日蓮聖人像が祀られています。境内には、日蓮聖人が腰かけて説法をしていたと言われる「高座石」が残されており、この石に座って日蓮聖人が布教をしていたときに七面大明神が聖人に促されて龍の姿で現れ、七面山の方に飛んで行ったという伝説が残っています。

